

今後のエンピリカルソフトウェア工学に関する研究開発の一層の促進を目的として、本小特集（2022年1月号掲載）を企画致します。

エンピリカルソフトウェア工学は、ソフトウェアサイエンティフィックな貢献からツール・システムの開発と評価、産業界での経験報告に至るまで、ソフトウェア及びソフトウェア開発に関する実証的アプローチに基づいた研究を対象にしています。本小特集ではこの分野の研究が更に発展することを目指し、エンピリカルソフトウェア工学に関する科学的な貢献、ツール・システムの開発と評価、産業界での経験報告から、追試研究、質的・量的分析に至るまで、様々な研究を対象に論文を募集します。

## 1. 対象分野

主な対象は以下の通りですが、これらに限らず実証的アプローチの論文を広く募集します。

- ・ソフトウェア開発を対象とした自動化支援
- ・ツールやシステムの開発とその運営からの知見
- ・質的・量的アプローチや混合手法を用いた実証研究
- ・技術やツールの比較・評価
- ・実験と疑似実験
- ・FLOSS 開発とソフトウェアエコシステム
- ・ソフトウェア工学における人的要因と社会的側面
- ・産業界における経験
- ・メタ分析
- ・ソフトウェア開発の科学
- ・ソフトウェアアナリティクス
- ・ソフトウェアドキュメンテーション
- ・ソフトウェアプロセスとプロダクト
- ・ソフトウェア品質管理
- ・ソフトウェア再利用
- ・テスト、検証、妥当性評価

## 2. 論文の執筆と取扱い

通常の英文論文と同一とします。ページ数は、原則として、論文の場合は刷り上がり 8 ページ、レターの場合は刷り上がり 2 ページを標準とします。初期投稿時のレターの最大ページ数は 4 ページです。標準ページ数を超えると、掲載料が急に高くなりますので御注意下さい。詳細は“The Information for Authors”を御参照下さい。なお、査読後の再提出期間（通常は 60 日）を短縮する場合があります。

[https://www.ieice.org/eng/shiori/mokuji\\_iss.html](https://www.ieice.org/eng/shiori/mokuji_iss.html)

## 3. 投稿方法

Web による電子投稿のみ受け付けます。 [https://review.ieice.org/regist/regist\\_baseinfo\\_e.aspx](https://review.ieice.org/regist/regist_baseinfo_e.aspx) より御登録下さい。初期投稿時に、編集可能な論文本体（TeX/Word）、図、著者の写真、biography も投稿する必要があります。なお登録時には必ず“Journal/Section”で “[Special-MP] Empirical Software Engineering”を選択して下さい。[Regular-ED]を決して選択しないで下さい。また、Web による電子投稿の際、“Copyright Transfer and Page Charge Agreement”に承諾して頂きます。

## 4. 論文投稿締切日 2021年2月26日（金） 23：59 JST 厳守

## 5. 問合せ先

林 晋平（東京工業大学）

TEL〔03〕5734-3213

E-mail：hayashi@c.titech.ac.jp

## 6. 小特集編集委員会

委員長 林 晋平（東工大）

副委員長 小林隆志（東工大）、畑 秀明（奈良先端大）、Mauricio Aniche（TU Delft）

委員 伊原彰紀（和歌山大）、小形真平（信州大）、崔 恩瀾（京都工芸繊維大）、藤原賢二（豊田高専）、山下一

寛（富士通研），Raula Gaikovina Kula（奈良先端大）

## 7. 付記

- \* 締切日を厳守して下さい。
- \* すべての著者は，論文が採録となった場合，2021年9月頃に掲載料をお支払い頂くことになります。2021年10月15日までに支払いが完了しない場合には，採録取り消しとなります。
- \* 投稿に際しては，著者のうち少なくとも1名は本会会員でなければなりません。必要な投稿資格を満たしていない著者からの投稿論文については，投稿を受け付けないこととなりますので御注意下さい。入会の案内はこちらを御覧下さい。 [https://www.ieice.org/jpn\\_r/member/join.html](https://www.ieice.org/jpn_r/member/join.html)
- \* オープン化：2017年1月号以降に掲載された電子情報通信学会英文論文誌Dのすべての論文を，J-STAGEを通じて全世界の読者へ公開しています。2020年1月号以降に掲載される論文には，電子情報通信学会の多くの論文誌で適用することができるオープンアクセスオプションを適用することができなくなります（オープン化は，2020年1月以降も継続する予定です）。オープン化とオープンアクセスオプションに関する詳細は，Information for Authorsを御参照下さい。オープン化とオープンアクセスオプションに関しては，予告なく変更されることがあります。  
[https://www.ieice.org/eng/shiori/mokuji\\_iss.html](https://www.ieice.org/eng/shiori/mokuji_iss.html)